

地域意見交換会を開催しました

10月23日～11月10日

ID 454925816 問合せ 秘書人事課 (TEL.23-7618)



地域自治区を単位とした市内10会場での地域意見交換会を開催し、計299人の市民の皆様にご参加いただきました。各会場での意見の中から、主な内容についてお知らせします。

新城市民病院

■機能の拡充・救急体制

Q 新城市民病院が北部医療圏として、重要な役割を果たしていると思っております。今後の機能の拡充や救急体制の強化について教えてください。(新城・東郷・鳳来南部)

A 現在、総合診療科の医師10人体制で救急を受け入れており、受入率は約6割になっています。今後も豊橋や豊川の南部医療圏との連携体制を堅持していきたいと考えています。

また、今年度新城市民病院の経営強化プランを立てているところですが、この地域に必要な医療、北部医療圏の基幹病院として求められる機能も考慮し、新城市民病院のあり方を定めていきます。

■情報の共有化

Q 建物や医療装置といったハード面だけではなく、情報の共有化などソフト面も整備してほしいです。

私ばかりつけ医から市民病院の紹介を受けて精密検査をしています。その後のフィード

バックを紙媒体でやっているようです。(新城)

A データベースは、現状できていない状況です。かかりつけ医の紹介により、市民病院で急性期の治療をした後、紙媒体でかかりつけ医へ報告しています。

今後、医療DXを推進するため、国が電子カルテの共通化の取り組みを始めようとしているところですが、国の取り組みにあわせて情報の共有化を進めていくことを考えています。

風力発電

■作手地区の風力発電

Q 作手に風力発電建設の計画があり、健康被害などが心配です。中部電力(株)の説明によると、菅沼や守義などの建設地域だけ住民の了承が得られればよい、という印象を受けました。市の対応を教えてください。(千郷・鳳来北西部・作手)

A 風力発電事業については、作手地区全体を対象とした説明会実施の要望がありましたので、10月14日に中部電力(株)が作手地区で説明会を開催しています。

また、令和6年、鳳来地区、新城

地区で説明会を開催する予定と聞いています。

中部電力(株)からは、地域の合意なくして勝手に進めないと発言をいただいています。あくまで、地域の皆様の理解が前提になる事業であると認識しています。

その上で、地域の皆様に報告すべき動向などがあれば、情報共有させていただきます。

災害対策・災害復旧

■河床の浚渫(水底堆積土砂の除去)

Q 土砂によって河床が高くなった所が多く見られます。6月2日のように今後また豪雨が発生した場合、さらに被害が発生するのではないかと心配しています。河床の浚渫をお願いします。(鳳来南部・鳳来北西部)

A 土砂により河床が高くなると、その分だけ川の流量のキャパシティが下がり、災害の危険性が高まります。

市は河川の現場調査を行い、著しく堆積物が多い河川については、計画的な浚渫を行っています。しかし、限られた予算の中で対応しているのが現状です。引き続き、国への予算の要望等をしつかり行っていきます。

■指定避難所

Q 現在山吉田地区では、黄柳川小学校と山吉田トレーニングセンター、旧黄柳野小学校の3カ所を避難所に指定しています。

6月2日の水害の時、黄柳川が氾濫しそうでした。黄柳川小学校と山吉田トレーニングセンターは川の近くにあり心配です。地震の時はよいですが、水害

の時は大丈夫かと心配です。(鳳来南部)

A 例えば、山吉田こども園や愛知県森林・林業技術センターなども運用面で考えていく必要があると思います。

また、地震の場合と水害の場合と避難所を分けると、地域の人がどこへ行ったらよいのか混乱してしまいますので、できるだけ同じ場所がよいと考えます。

■指定避難所での医師の対応

Q 災害時、避難所に医師はいますか。また巡回してくるのか教えてください。(八名)

A 災害が発生し、避難所を開設した時、災害対策本部の中の医療救護班が担当になります。担当部署は地域医療支援室になり

ますが、医師会、歯科医師会、薬剤師会に協力を求め、体制を整備していきます。

保健センターに応急救護所を作りますので、実際は保健センターの保健師が避難所を回って、避難されている方の健康状態を確認することになります。

公共交通

■各地域の検討状況

Q 区長会が中心となり、公共交通の地域検討組織として検討を進めています。他の地域の検討状況を教えてください。(舟着)

A 新城地区は、公共交通による中心部での移動ニーズを把握するにあたり、タクシークーポン付きSバス1日乗車券を利用していただくため、民生委員などへ説明を行っています。

千郷地区は、令和5年4月から新しい運行方法による西部線が始まりました。

東郷地区は、令和5年度中に北部線の運行ルートについての地域提案をまとめる予定です。

八名地区は、小型車両による区域運行の方向性について、地域全体の合意形成が図られ、来

年度からの運行に向けて検討を進めています。

鳳来南部地区は、直接市内中心部に向かうバス運行に向け、課題を整理し、調査・検討を進めています。

鳳来東部地区は、舟着地区と同様に秋葉七滝線沿線について区長を中心とした検討組織と意見交換および課題の共有を進めています。

鳳来北西部地区は、田口新城線の維持確保のため、休止した四谷千枚田新城線の代替路線として、この10月からデマンド運行の実証実験を開始しました。

作手地区は、作手線、守義線の運行ダイヤに課題があると認識しており、地域の各団体と意見交換をしています。



鳥獣害

■鳥獣害対策の推進

Q 鳥獣害関係の予算が約25%削減される話を聞きました。今の予算から4分の1減ってしまうと優先順位をつける必要があると思います。

A 市では鳥獣害対策をどの様に推進されるのか教えてください。(作手)

A 猟友会のメンバーが高齢化し、減少してきている状況です。現役世代の方をはじめ、若い世代に狩猟に携わっていただくよう進めていきます。

鹿の捕獲数は、増えています。鹿を追い払うなどの方策、支援についても、猟友会の皆様の知恵をいただきたいです。

鹿や猪は資源です。食肉の活用という観点で、地域資源として活かすことができます。そのためには飲食店や猟友会の皆様、また加工処理施設の皆様と連携が必要ですので、猟友会のお力添えをお願いします。(現在、猪は豚熱が発生してから、原則食肉として市場に流通ができません)

また、有害鳥獣に関する予算は、現状を維持していきます。

■鹿対策

Q 市では鹿対策をどのように行っていますか。鹿を防ぐ対策ではなく、減らす対策をお願いします。(八名)

A 猟友会の皆様が中心となって捕獲駆除をしますが、鹿は減らない状況です。猟友会のメンバーも高齢化し減少していますので、若い方に入ってもらおう、取り組む必要があります。

■カモシカ対策

Q カモシカは天然記念物で駆除はできないことは分かっていますが、増えないように市で捕らえて避妊手術することはできますか。(舟着)

A むやみに殺処分はできません。事故などで死んだ場合は、家畜保健所に持ち込んで状況を確認し、適切に処分することはできますが、事前に殺処分するのは文化財保護の観点から難しいのでご理解いただきたいと思えます。

避妊手術制度は何もなく、現状、打つ手はありません。

■捕獲後の処理

Q 捕獲した有害鳥獣は5センチ×50センチの箱に収まる大きさに解体しています。処理には最低3人ぐらい必要です。処理できる施設設置の考えはありますか。(東郷)

A 処理施設設置は難しいですが、検討する必要があります。

捕獲した有害鳥獣はクリーンセンターで焼却処理しますが食肉として活用できれば、その必要がなくなりますので、地域振興の一つの方策として考えていきます。

公共施設の維持管理

■現状と課題

Q 市の財政状況と、社会インフラの長寿命化整備の現状と課題について教えてください。(鳳来中部)

A 社会インフラの長寿命化整備について、水道、市道をはじめとする道路、クリーンセンター等の衛生関連施設、通信などは個々の計画に沿って整備を進めています。

しかし、市税など歳入の減少やどうしても必要な大型事業の

実施があり、財源確保が大変厳しい状況にあります。最小限の修繕であったり、代替方法の検討実施により維持管理に努めているところがあります。

今後さらなる歳入の減少が続くと思いますので、優先度を間違えないように、施設の維持、サービスの提供を行わなければならないと考えています。

■鳥原児童館

Q 舟着地域には老人福祉センターと鳥原児童館の2カ所の公施設があります。

老人福祉センターは令和6年度末に廃止する施設として説明を受けています。

鳥原児童館は公民館活動や、生涯学習活動を目的に利用できることになっていますが、今後市は維持管理を継続していくのか、方針を教えてください。(舟着)

A 鳥原児童館は児童の遊び場、居場所として、また日曜日でも雨の日でも集える場所として地域の拠点施設ですので、今後も維持管理に努めていきます。

■旧黄柳野小学校

Q いろんな取り組みをして地域を活性化したいと考えています。廃校になった旧黄柳野小学校を
使用できますか。(鳳来南部)

A 旧黄柳野小学校は老朽化が進んでいますので、市の公共施設個別施設計画の中で、今後廃止する方針で位置づけています。

旧黄柳野小学校は、現在東三河ドローン・リバー構想推進協議会というドローンを活用して地域課題を解決する協議会と賃貸借契約を交わし、共同の研究や実証実験の場所として活用しています。緊急時の避難所という以外に第三者に貸し出すことができない契約になっていますので、校舎の利用はできません。ただし、地域のイベントなどで一時的にグラウンドを使用したいという要望がありましたら、協議会と調整し、使用することは可能だと思います。

地域自治区

■今後の地域自治区制度

Q 地域自治区制度ができて10年が経ちました。体制について見直す時期に来ていると思います。

この地域自治区制度について、今後どのように進めていくのか教えてください。(鳳来中部・鳳来南部)

A 地域自治区制度については、地域計画推進体制を整える上で、各地域自治区で検討していただき、それぞれの地域自治区から提言をいただいています。地域自治区予算と地域活動交付金の方についても提案をいただいております。

今後条例改正しなければいけない部分も出てくると思います。体制自体の見直しをしていく時期ですので、今後検討していきます。

学校のあり方

■生徒数減少時の体制

Q 東陽小学校は生徒が1000人、大野こども園は園児が26人です。今後人数が減っていった時、どのような体制になるのか教えてください。(鳳来東部)

A 平成21年に制定された学校再配置指針によると、学校で6学級未満になる、すなわち学年1学級を持つことができず、複式

学級になる時点で、保護者の方の意見を参考に、学校のあり方を決めていくこととなります。

東陽小は来年度、全校児童が90人になりますが、まだ複式学級ではありません。しかし、新城市内ですと複式学級を持つ学校が今後数年で、3、4校になつていきますので、その地域にはこれから学校のあり方を検討してもらうこととなります。

教育委員会は、子どもたちが学びやすい環境を一番大事に考えていきます。

*質問と回答は、複数の地区から出されたものがあるため、また紙面の関係で、一部を読みやすく加工し掲載しています。

*詳しい内容は、市ホームページをご覧ください。





入場無料

新城ラリー大感謝祭

ID 173008254 問合せ 観光課 (TEL.23-7613)

日時 2月11日(日) 10:00~15:00

会場 桜淵公園

詳細は▶
市ホームページ

日時 2月11日(日)
午前10時~午後3時

会場 桜淵公園

イベント内容
式典、デモラン、飲食・物販、働く車の展示、自動車関連企業出展 など

駐車場 駐車場は事前申込み(無料)が必要です。事前申込みがないと当日、駐車場を利用できません。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

その他 チケットが無い方は、JR飯田線など公共交通機関をご利用ください。当日のスケジュールなどの情報は市ホームページで随時更新しています。

2004年から始まった新城ラリー。その新城ラリーは2023年大会で20年の歴史に幕を閉じました。この間、多くの感動を与えてくれ、世界ラリー選手権開催の機運を高めました。

今までの感謝の気持ちを込めて新城ラリー大感謝祭を開催します。



▲2007年大会(桜淵公園)

見どころ①
大迫力のデモラン

桜淵公園グラウンドでプロドライバーによるデモラン走行を行います。迫力満点のドリフト走行などを間近で見ることが出来ます。

新城ラリー大感謝祭マフラータオルと記念誌をセット購入された方には、抽選でデモラン走行同乗体験ができます。アクセル全開で走るラリー車に乗れる機会は滅多にありません!

「新城ラリー大感謝祭」

見どころ②

働く車の展示

木かげプラザ前駐車場の一角に、消防車両や自衛隊車両など、私たちの生活を守っている車が集まります。

お子さんと一緒に思い出の写真を撮ってみてはいかがでしょうか。



▲2023年大会(県営新城総合公園)

見どころ③

飲食・物販と企業出展

木かげプラザ前駐車場では約15店の飲食店がブース出店します。おいしい食事を食べ、新城ラリー大感謝祭を最後までお楽しみください。

また、企業出展では自動車関連企業が特別なブースを設けます。普段、なかなか見ることが出来ない展示を見る事が出来ます。

新城ラリーの歩み

新城市の豊かな自然を地域資源として有効活用し、アウトドアスポーツによる魅力と個性あるまちづくりを推進するため、DOS (Do Outdoor Sports) 地域再生プランを日本政府に提出しました。そして、第1号の認定を受け、新城ラリーは歩みをはじめました。当時はまだ、JAF全日本ラリー選手権直下クラスの地方選手権での開催でした。



▲2006年大会(ふれあいパークほうらい)

その後2007年にJAF全日本ラリー選手権へ昇格し、さらに2013年には会場を県営新城総合公園へ移しました。

ラリー競技以外にもデモラン走行を会場内で実施するなど様々なイベントを企画し、多くの人たちが楽しめる工夫を凝らしました。



▲2018年大会(県営新城総合公園)



▲2023年大会(県営新城総合公園)

20年という長い年月の中で、多くの方々の努力や想いが実を結び、新城ラリーは国内トップクラスの規模を誇る大会へ成長を遂げました。さらに、愛知県と岐阜県で開催された世界ラリー選手権ラリージャパン開催の機運を高めました。



▲ラリージャパン2022 (鬼久保ふれあい広場)



◀ラリージャパン2023(作手総合支所)